

## JTB グループ労働組合連合会

### 第5回震災復興ボランティア 活動報告レポート

日 時 : 2012年4月18日(水)～19日(木)

場 所 : 岩手県陸前高田市

参加人数 : 26名(連合会幹事含む)

報告者 : P T S労働組合 鈴木 由紀子

#### 1. はじめに

何度かボランティア募集の案内を見ながら、参加したいという気持ちと現地に行って現実を受け入れられるかという不安があり、気持ちが決まっても仕事の調整ができず、やっと今回参加することができました。現地で求めるボランティアの内容も昨年とは様変わりしていることも気になり、また、体力的な不安もありながらの参加になりました。

#### 2. 1日目

前日は一ノ関のホテルに各自チェックインだったので、朝の受付の際に皆さんと顔合わせになりました。PTSからは3名参加でしたが、個別に申込んでいる為、同じ会社であっても他の皆さんと同様です。2度目の方も多く、皆さんしっかり身支度を整え、すぐにでも作業できるように意気込みを感じました。1時間半程バスに乗り、ボランティアセンターに到着。作業をする場所のマッチングがされ、1日目は海岸近くの細かい瓦礫の撤去ということになりました。ステッカーをもらい自分の名前を書いてそれぞれが腕や胸に貼り、ボランティアセンターの方から諸注意を受けました。今でも遺体(骨)が見つかることもあるということ、1年経った今でも辛い現実があることを認識して緊張も高まります。一輪車やスコップ・草刈り用の鎌などを積込み、現場に向かいましたが、約20分程度かかり、陸前高田市の広さを感じました。

作業は比較的広い場所を2グループで分担し、細かい瓦礫を撤去ということでしたが、見た目にはきれいになっている場所でも細かい缶やゴミが多く、ちょっと地面から出ているホースや衣類を引っ張り出そうとすると奥からパイプやトタン板まででてきて、結構大きい瓦礫が集まりました。

最初の見た目より重労働に30分～40分おきに休憩をとり、作業を続けました。

海岸近くで堤防も高くここを超えてきたということだけでもびっくりでしたが、堤防の外の建物は津



波でめちゃくちゃでそのままになっていました。休憩を取っている時に地元の年配のお母さんとお話する機会がありました。何度も御礼を言わ

れ、一度戻ってからお菓子を持ってきてくださりました。まだまだ大変な様子ながらも元気にお声をかけてもらいほっとした気持ちになります。地元の方も前を向いて一歩ずつ進んでいるようで嬉しかったです。

比較的過ごしやすい季節になり、あえてバスの中ではなく外で、出発前に一ノ関で買って来た昼食

をいただきましたが、まだ風が冷たく感じることもあり、早く作業を始めたいという声も出るほどでした。



午後からも約2時間程度の作業をして、ボランティアセンターに戻り、お借りした用具を洗って戻し、うがい薬でうがいをし、手の

消毒の後、ボランティアセンターの中でそれぞれ温かい飲み物をいただきました。ボランティアセンターの中には今まで来られた方々が残した寄せ書きや千羽鶴であふれていました。もちろん、ボランティアに来られる方々も大変だと思いますが、ボランティアセンターにいてそのお世話をしている方々も大変です。朝ボランティアセンターから出発する時もボランティアセンターから帰る時も皆さんが道路の両脇で大きく手を振って送り出してくださいます。本当に温かさを感じ、また来たいと思わせてくれます。

宿に戻り、いったん着替えをしてから、懇親会を行いました。参加した皆さんの自己紹介でそれぞれの震災への思い、ボランティアへの思いが語られ、中にはご自身でツアーなどに参加され月に1～2度来ている方もいてびっくりしました。人はそれぞれ、なかなか思いを形にするのは難しいと思いますが、同じグループの中でたくさんの方々がボランティアで思いを一つにできること、できる機会がもらえるのはすごく嬉しいことだと思いました。

### 3. 2日目

前日と同様、受付をしてバスで移動。ボランティアセンターに立ち寄り、諸注意を受け、用具をお借りして出発。今日は個人のお宅の畑まわりの作業です。隣同士のお宅2軒を2グループに分かれて担当。私たちのグループは畑の細かい瓦礫や石をふるいにかけて、作物が植えられる状態に土をほぐすこと、畑の周りに杭を打ちネットをかけること、家の裏の斜面から草をブロックで掘り起し、畑の周りの法面に張りつけて土がこぼれないようにすることの3つです。畑の広さはそんなにないのですが、みんな慣れない作業のためどのくらいかかるか見当もつきません。とりあえず、畑の土をふるい



にかけるのを女性3名1組で2組、ネットは杭になる木の先を削ることから始める為に男性2名で、法面作りは女性4名と男性1名で3つのグループ

に分かれて始めました。天気予報では寒くなるということで比較的皆重ね着をしていましたが、天気も良くなり、また、慣れない作業で暑くなり、上着を脱いで作業するほどでした。私は土をふるいにかけるグループでしたが、2人掛かりでふるいをずっと振っているのので、いつもは使わない腕が筋肉痛になり、また、しゃがんだ状態が続き、腰も疲れました。30分～40分おきに休憩を取りまし

たが、1日目と違い、誰も作業を終わらせたい、残したくないという意識が強く、お昼の休憩は誰が言うともなく、30分ほどで立ち上がり作業を続けました。全部で5時間程度の作業でしたが、なんとか目標をクリアでき、みんなの表情にも達成感が感じられました。



作業が終わり、お手伝いをさせていただいたお家の方から津波の時のお話を聞かせていただきました。この場所は半島の裏側にあたり、海が直視できる場所ではなく、海面の高さからはちょっと高台になっているので、水が上がってきた時も下に停めてあった車を庭先まで動かした(上げた)のですが、結局家の軒下まで水が来てしまい、家の中も車もダメになってしまったそうです。

帰りの列車のこともあり、1日目より30分程度早めにボランティアセンターに戻り、用具を洗って戻し、うがい

や手洗いをした後、1日目と同じようにボランティアセンターの方々に見送られながら陸前高田市をあとにしました。

一ノ関まで戻り、日帰り温泉で汗を流し、着替えをして駅に向かい新幹線で東京へ戻りました。

#### 4. 参加してみて

慣れない作業でいつも使わない体のあちこちが痛みました。それでもやりきった感があり、痛みもいつの間にか消えていました。(思ったより若かったのかな...) 今では笑い話です。田舎に住んでいるわりには農作業など縁遠く、自分でも良くやったなと思います。

陸前高田市の状況はまだまだ復旧の段階で復興の過程には至っていない印象です。市内のいたるところに瓦礫の大きな山が残り、重機で分別をしているようです。海岸沿いの大きな建物は被害を受け



たままの状態はまだ残っていますし、海岸から奥まった場所にはプレハブの仮店舗で営業しているお店も多くありましたが、本当の復興にはまだまだ時間がかかり

りそうです。

それでも2日目に伺ったお宅や1日目に会ったお母さんのように、一生懸命に普通の生活に戻ろうとしている人たちも多く、頭の下がる思いです。

別れの時には現地の方々からお礼を言われましたが、参加した皆の口からも「ありがとうございました」と自然に出てきました。今考えると、どういう気持ちだったかはよくわかりませんが、本当に自然に言葉になった気がします。そして、とても貴重な体験になりました。また、ボランティアはしてあげるのではなく、寄り添う気持ちが大事というのを実感しました。

また、行きたいと思う気持ちがありますが、なかなか一人で行ってできるものではないというもの本音です。今回、このような機会をJTBグループ労働組合連合会として企画していただき、社会貢献活動の一環として参加できたことはとても有意義でありがたいことだと思っています。

このような活動にはTBグループが一丸となって多くの方に参加していただきたいと思っています。